



2015年申13号 「鉄道車両製造業の再編」を検証し、働きがいのある鉄道車両製造事業の実現を求める申し入れ その①

団体交渉を行う

□ J-TREC 発足5年の成果と課題について(要旨)

会社としての成果

- ・ JR 向けの品質の良い車両をつくり続けてきたこと。首都圏の輸送を支えている。
- ・ 新潟支社管内の E129 系、E353 系やパープルラインの車両、E7 系の新幹線車両、そして公民鉄の車両もつくっている。
- ・ 色々な要素の力を蓄えているので今後発揮していきたい。

会社としての課題

- ・ 量産効果による低コスト
- ・ オペレーションメンテナンスにもとづいた事業の展開

□ 収益目標について(要旨)

《組合》2024 年までに収益を 1,000 億円目指すとしていたが、その目標は変わっていないのか。

《会社》10 年間で 1,000 億円を目指すと述べた。世界的な環境は変化しているので、その中に適宜今後修正は発生するが、今はそこを目指して走っていくことに変わらない。

《会社》発足当時 400 億円だった売上が 600 億円と伸びている。

□ 経営の第4の柱の位置付けについて(要旨)

《組合》経営の第4の柱ということで打ち出した。当時の目的と目指しているものは変わらないのか。

《会社》変わらない。 **鉄道車両製造事業は経営の第4の柱であることを再確認!!**

□ 変革2027における車両製造事業の位置付けについて(要旨)

《組合》変革 2027 に示されている車両製造部門の位置づけはどのように考えているのか。

《会社》変革 2027 の中でも輸送サービスの改善の項目があるので、その中に含有している。今回1つ目は輸送サービスの変革として、首都圏を中心として新しいサービスをつくる。その前提として新津が中心になって、通勤車両含めてしっかり品質の良いものをつくるために車両製造事業があるのが1つ。もう1つは世界に羽ばたくという項目があるが、海外案件をしっかりと行う。そういった意味で明確ではないが、基盤として製造事業が施策をバックアップしていく。輸送サービスの向上と世界に羽ばたくの2点で担っていく。

□ JRの役割について(要旨)

《組合》統括マネジメントとして JR 東日本が行っていくとなっているが、その考えは変わらないのか。

《会社》そうだ。

《組合》「車両製造プロジェクト」の役割は今後も変わりはないとしているが、今もあるのか。

《会社》「車両製造事業プロジェクト」を立ち上げていたが、現在名称は変更して「ビジネス戦略グループ」としている。一時的なプロジェクトではなく、車両製造を含めた当社の事業、グループ会社の海外を含めた事業をしっかりと見ていくというビジネス戦略グループを立ち上げている。

《組合》ビジネス戦略グループというどのように車両を売り出していくのかというイメージがある

《会社》実態としては製造事業を第4の柱にしていくのが目的。車両製造の品質を上げていくことが基盤。基盤を元にビジネス、営業利益を上げていく点で拡大解釈しているが、根本は変わらない。

その②へ続く